

指導と評価の両面から 児童の思いに寄り添う



POINT 1 「題材名」で、児童と「ねらい」を共有する

題材名には、児童の意欲を高めるだけでなく、学習のねらいやポイントを児童に伝える役割もあります。教科書の題材名をそのまま使うこともできますが、児童の実態に合わせて、アレンジすることも可能です。児童の学びの姿をイメージしながら題材名を考えてみましょう。

また、題材名をキーワードにしながら授業を進めることで、先生の声かけや児童のつぶやきも変わってきます。

みんなの「ここがお気に入り」はできたかな？
〇〇さんの「お気に入り」のポイントを教えてくれる？



【3年・題材名「ここがお気に入り」】

POINT 2 「問いかけ」で、児童の「思い」を引き出す

声かけにも様々な種類がありますが、特に大切にしていきたいのは、児童に思いを尋ねる「問いかけ」です。「これはどんなイメージでつくっているの？」「これからどうなっていくのかな？」といったように、児童の思いを引き出すような問いかけができると、作品からだけでは読み取ることが難しい児童の思いに触れることができます。

ただし、声かけをする時は、児童の活動の妨げにならないように配慮が必要です。活動する様子を見ながら、児童が話したくなるタイミングで問いかけてみましょう。



【4年・題材名「つなぐんぐん」】

POINT 3 「深い学びの視点」で、児童の「創造性」を育成する

図画工作科における「深い学び」の鍵となるのが、造形的な見方・考え方です。造形的な見方・考え方とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」です。

図画工作科で育成する資質・能力と造形的な見方・考え方とは、右の図のように互いに支え合う関係と言えます。指導や評価をするのは「資質・能力」ですが、その力を育成していくためには、児童が「見方・考え方」を働かせる授業づくりをしていくことが大切です。



3学年

「ここがお気に入り」

図画工作科実践事例1

内容のまとめり 「絵や立体，工作に表す活動」



教室内の気に入った場所に，自分の写真や材料などを組み合わせて，お気に入りの世界を工夫して表す。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して，場所や写真などを組み合わせた感じが分かっている。 材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 場所や写真などを組み合わせた感じを基に，自分のイメージをもちながら，感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいことを見つけ，表したいことを考え，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考えている。 場所や写真などを組み合わせた感じを基に，自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい，進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 

○指導と評価の一体化のポイント

【POINT 3】・・・題材名を生かした声かけ 【POINT 2】・・・思いを引き出す問いかけ

4学年

「つなぐんぐん」

図画工作科実践事例2

内容のまとめり 「造形遊びをする活動」

丸めてつくった新聞紙の棒を組み合わせたたり，切ってつないだりして，手や体全体を十分に働かせ，活動を工夫してつくる。



○指導と評価の一体化のポイント

【POINT 2】・・・思いに寄り添った声かけ

【POINT 3】・・・見方・考え方を意識した鑑賞活動

3学年

「〇〇がいっしょはど〜れだ？」

図画工作科実践事例3

内容のまとめり 「鑑賞する活動」

共通点に着目したクイズを互いに出し合うことで，作品のよさや面白さを感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げる。



○指導と評価の一体化のポイント

【POINT 1】・・・題材名を生かした振り返りの工夫

【POINT 3】・・・クイズを取り入れた創造的な鑑賞活動

～ここで紹介している3つの授業の様子は，右上のQRコードから見るができます～